

音楽科（音楽史）学習指導案

日 時 平成 17 年 12 月 15 日(木)第 5 校時
学 級 2 年 7 組(音楽科)32 人
(男子 2 人・女子 30 人)
場 所 音楽室 2
指 導 者 小 倉 眞一郎

1 題材名 「音楽の都 ウィーン探訪」

2 指導目標

- (1) 歴史的な事象について、意欲的に探究し、考察しようとする態度を身に付けるようにする。
- (2) 調べ学習や資料の作成等を通して、ウィーンの音楽文化について考察し、音楽に対する深い理解をもてるようにする。
- (3) ヨーロッパの音楽を身近なものとしてとらえ、より芸術的な音楽表現に生かそうとする態度を育てる。

3 評価の規準

- (1) ウィーンの音楽に興味・関心をもち、歴史的な特徴を理解するために意欲的・主体的に学習に取り組む。 (芸術への関心・意欲・態度)
- (2) ウィーンの音楽の素晴らしさを感じ取り、雰囲気を楽しむ。 (芸術的な感受や表現の工夫)
- (3) 調べ学習や海外研修を通して得た知識や体験を生かし、豊かな音楽表現に生かすことができる。 (創造的な表現の技能)

4 題材について

(1) 題材設定の理由

本校生徒は 1 年次における「情報」の授業で、コンピュータの基礎的な操作や知識を学んでいる。また、インターネットを活用し、情報収集や処理をするための基礎的な知識と技能を習得してきた。2 年次においては、教室に常設しているコンピュータを用いてインターネットを活用し、生徒自らが進路に関する情報収集を行い、進路目標設定に活用している。

音楽科の生徒は、1 年次から「器楽」、「声楽」、「音楽理論」、「ソルフェージュ」などの専門科目を学習し、音楽に関する基礎的な知識・技能及び表現方法を学んでいる。音楽科における IT 関係の活動については、1 年次から「ソルフェージュ」の聴音で、MIDI を用いた授業を展開している。これまで一斉授業では対応しにくかった生徒一人一人の習熟度に合わせた学習が可能になり、生徒は積極的・意欲的に授業に取り組むようになった。また、放課後等を利用して進路目標に応じた自主学習にも意欲的に参加している。

さらに、各科目の学習内容をより一層定着させるため、2 年次には海外（ウィーン・パリ）研修を実施している。今年度は、特にウィーンに縁のある作曲家の人物像や歴史的背景などを、個人及びグループで調べ学習をすることで確かな学力を身に付け、研修の意義を深めたい。加えて、今後の音楽に対する学習や表現活動において必要な、主体的に探究する力を養い、更に豊かな感性を育みたいと考え、本題材を設定した。

(2) 教材について

- ア 教材名 喜歌劇「こうもり」（ヨハン・シュトラウスⅡ 作曲）
「Ave Maria」（カッチーニ 作曲）
「各グループで設定した研究テーマに基づく教材」

イ 指導観

指導にあたっては、生徒がインターネット等を利用して主体的に調べ学習を進めることにより、生徒の意欲・関心を引き出し、ウィーンに縁のある作曲家の生涯やその時代背景などを学習することにより、ヨーロッパ音楽の素晴らしさを理解させたい。また、海外研修でその学習内容を深め、研修の成果としてまとめられるようにし、国際的な視野に立った音楽観を身に付けさせ、今後の創造的な音楽活動に生かせるようにしたい。

(3) 生徒の実態

本校音楽科の生徒は、明るく積極的に学習することができる。特に、実技に関する学習においては感覚的・直感的な思考や表現に優れ、時間をかけて取り組んでいる。

しかし、このような表現活動において必要な楽曲のアナリーゼ（理論や作曲者及び時代背景など）について深く考察し、音楽理論や音楽史の学習内容と演奏法などを総合的に表現の工夫に生かそうとする生徒は少ない。

(4) 指導にあたって

ア ヨーロッパ音楽の歴史に関心をもてるよう、インターネット等を用いて視覚的にも分かりやすく親しみをもたせ、理解できるようにする。

イ 主体的・意欲的な学習を進めるため、個人及びグループごとにテーマを設定し、調べ学習を中心とする活動を重視する。

ウ 中間発表を実施することで、互いの研究テーマにも興味・関心をもち、疑問や質問を互いに述べることで探究心をもち続けられるようにする。

エ 海外研修前の調べ学習だけでなく、研修での体験を発表することにより、学習をより充実し、学習内容を定着させられるようにする。

5 指導計画（全9時間）

過程	段階	主な学習活動・学習内容	指導上の留意点
1次	1	・海外研修の意義を理解する。 ・良い研修資料作りのための資料の探し方やまとめ方の学習をする。	・海外研修の事前学習であることを意識させ、興味・関心をもたせる。 ・インターネットを利用する上での注意点を確認させる。
2次	2・3	・テーマの内容について、インターネットを利用して調べる。	・各テーマに沿った学習内容を、一人一人が責任をもって調べるように意識させる。 ・HPをそのまま引用せず、他の生徒の目線に立ったレポートにまとめられるように促す。
	4	・中間発表を行い、ヨーロッパ（ウィーン）の音楽文化について概要を知る。	・互いの発表内容を聞き、各テーマの学習をさせる。 ・各テーマについて更に調べて欲しいことや疑問点を生徒一人一人に意見を求め、興味や探究心をもたせる。 ・次段階の調べ学習のテーマとさせる。
	5・6	・中間発表を踏まえ、分かりやすいまとめ方を工夫する。	・画像や音声など文字情報以外も利用し、分かりやすいレポートにまとめさせる。
	7	・海外研修での課題を確認する。	・海外研修での課題を意識させ、探究心をもたせる。

3次	8 (本時)	・海外研修で体験・体感した内容をまとめ、ヨーロッパ音楽の素晴らしさを味わう。	・各グループ内で意見発表をさせ、研修内容を確認させる。 ・海外研修で学んだ内容や写真資料などを整理させ、発表内容を工夫させる。
	9	・グループごとに、まとめた内容を発表する。 ・相互・自己評価をする。	・体験発表を取り入れ、学習内容を充実し定着させる。 ・ワークシートに記入させる。

6. 本時（8／9）

(1) 目 標

- ア 海外研修旅行の感動体験を思い出し、研修内容をまとめ、積極的に発表する。
イ 感動体験を基に、ウィーンの音楽について考察し、知識や理解を深める。

(2) 実 際

過程	主な学習活動・学習内容	時間	形態	指導上の留意点（評価の観点・評価方法）
導入	1 各グループのテーマについて確認する。	5分	一斉	・互いの研究内容を確認できるように、プロジェクトを用いることで、興味・関心をもたせ、探究心をもてるようにする。
展開	2 グループごとに意見を発表し合い、まとめる。	15分	グループ	・研修内容をまとめられるように、ワークシートを配布し、記入させる。 ・「研修のしおり」を活用し、研修旅行中に学んだことなど積極的な意見が発表できるようにする。 ・論点をまとめ、発表内容を焦点化するよう中間指導をし、より主体的な活動ができるようにする。 *積極的に意見を述べ、まとめているか。 (観察・ワークシート)
	3 ヨーロッパ研修で撮影した写真資料等を用い、まとめる。	10分	グループ	・ファイルサーバに事前に保存したテーマごとの写真ファイルを利用させる。 ・記録写真等を効果的に用い、体験の感動を呼び起こし、ウィーンの音楽のすばらしさを理解できるようにまとめさせる。
	4 グループ発表（2グループ程度）をする。	12分	グループ	・体験したことや研修で得た学習内容を中心に発表させる。 ・発表の内容が理解しやすいように、プロジェクトを用い、体験したことを視覚的にも捉えさせることで、定着を図る。 ・他のグループの発表内容を後でまとめられるようにメモを取らせる。 *ウィーンの音楽について考察し、知識や理解を深めようとしているか。 (観察・ワークシート)

まとめ	5 本時の活動のまとめをする。 「Ave Maria」を合唱する。	6分	一斉	・発表・学習内容を理解できるように、ワークシートに記入させ、他のグループの良さを感じ取ることができるようにする。 *ヨーロッパ音楽を総合的に理解し、表現しようとしているか。(ワークシート・観察)
	6 次時の学習内容を確認する。	2分	一斉	・次時の学習に意欲をもたせる。

(3) 評価

- ア 海外研修旅行の体験で得た学習内容をまとめ、ヨーロッパ音楽の素晴らしさを味わうことができたか。
- イ ヨーロッパ音楽を総合的に考察し、知識や理解を深めることができたか。さらに、より高い芸術的な音楽表現に生かそうとする意欲をもてたか。